＜速報＞
令和6年度当初予算（案）概要
令和6年2月14日発表

熊谷市
記者クラブ取材情報（予算関連）

事業の名称等
スマートシティ推進事業

1 事業概要

【目的】
デジタルと人の力により地域の快適性と持続性を確保するため、スマートシティの取組を推し進め、市民参加とデータ活用による先進的なまちづくりの実現を図ります。

【内容】
①【マイナンバーカード認証システムの構築】都市ポータルアプリ「クマぶら」上にマイナンバーカードを活用した個人認証機能を追加実装します。Ｒ６年度は図書館利用登録申請システムと連携し、市民生活の利便性を高めます。
②【グッドデザイン賞への応募】デジタル技術を活用した暑さ対策の取組「暑さ対策スマートパッケージ」や今後のクールシティへの取組で「グッドデザイン賞」へ応募し、熊谷スマートシティの価値の持続を目指します。
③【立正大学との共同研究】立正大学と連携したデジタルデザイン企画「気象観測機器の開発及び気象データの分析」を行い、快適なまちづくりのための技術・ノウハウを蓄積します。
④【ＤＸアイデア・事業創造の流れづくり】中学・高校生以上の若者や本市に関わる事業者、教育関係者等がＷＥＢ上でオープンにつながり、熊谷スマートシティに関わるビジネス交流や起業アイデアなどを話し合い、事業化につなげる場「コミュニティラボ」を始めます。
⑤【データ活用まちづくり】市民参加によるデータ分析やデータ活用を通じて、サービスの利用促進や改善、地域課題の解決に向けた施策の立案に活用します。

【効果】
デジタルコミュニティツールの活用と、市民参加とデータ活用によるまちづくりを目指します。

2 特徴やPRポイント

【特徴】
○地域の課題解決のため、公（行政）・民（企業・団体等）・学（学術機関）が一体となって、データを活用したまちづくりを進めています。

【ＰＲポイント】
○本市の気候特性に着目したデジタルによる暑さ対策は唯一無二の取組であり、グッドデザイン賞の受賞は熊谷市の誇りにつながると考えます。
○小・中学生対象の「シーンスケッチコンテスト」、中学・高校生以上を対象とした「コミュニティラボ」、専門学校生、大学生以上を対象とした「デジタルデザイン企画」に一体的に取り組むことで、新たなアイデアを熊谷スマートシティ及び市内産業ＤＸに取り入れる流れを構築します。

※ 資料の有無（ 有 ・ 無 ）

担当課　市長公室政策調査課　　担当　市原・森
連絡先　048-524-1111　　内線　316・368

1　マイナンバーカード認証システムの構築について

事業概要

熊谷市・都市ポータルアプリ「クマぶら」を入り口とした、汎用性の高い公的個人認証サービスと連携したシステムを導入し、熊谷市立図書館の利用登録のために来館することなく利用登録手続きが完了する「図書館利用登録申請システム」を構築する。

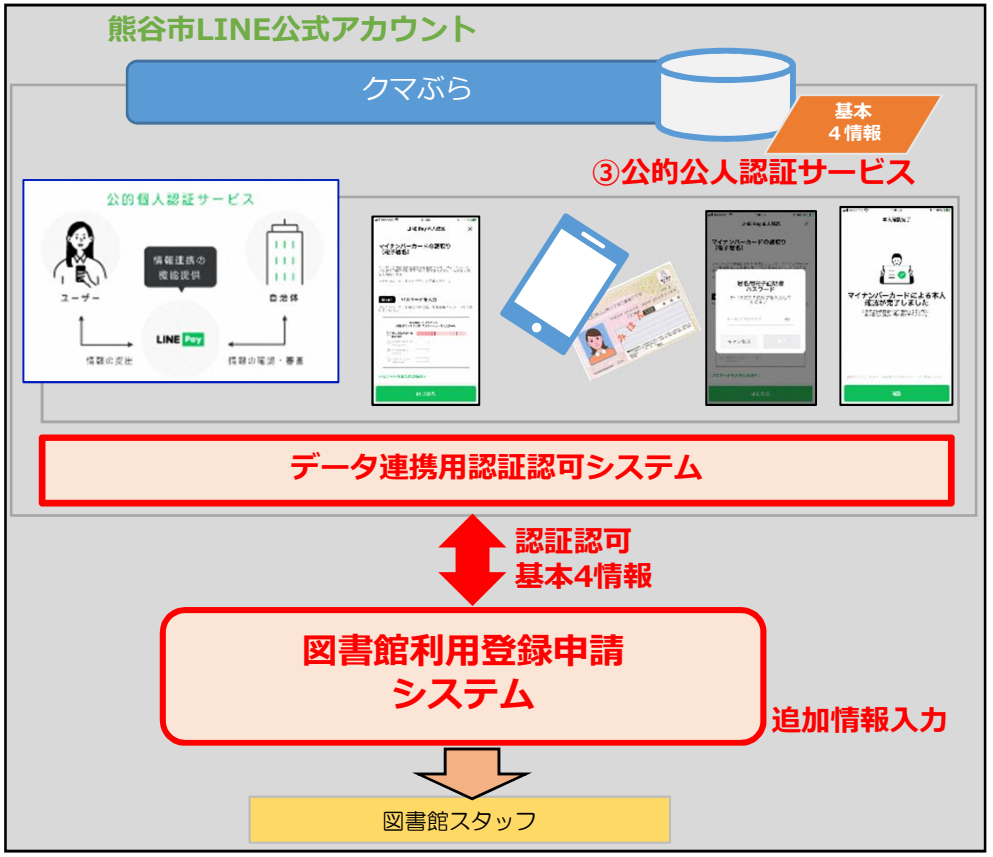
具体サービス

①図書館利用登録申請システムの実装
・電子書籍の利用者は図書館へ来館せずに、利用登録から利用までが可能となる。

②都市ポータルアプリ「クマぶら」機能強化
・公的個人認証サービス連携による本人確認
・データ連携のための仕組みを構築し、APIインターフェースを介した認証認可、基本4情報※の受け渡し
※基本４情報（氏名、生年月日、性別、住所）

③公的公人認証サービスの利用
・汎用性の高い公的個人認証サービスの利用により、施設予約や補助金交付決定等の他業務への応用が見込め、スマートシティや自治体DXの取組みの推進に寄与する。

サービスイメージ図



2　グッドデザイン賞への応募について

・本市はこれまで「暑さ対策」に数多くの施策を打ち出し取り組んだ結果、環境省「熱中症予防声掛けプロジェクト」「ひと涼みアワード」においてトップランナー賞（日本一）受賞、殿堂入りを果たしました。（2022年熊谷市立荒川中学校がトップランナー賞受賞、2012年から2019年の8回中、熊谷市がトップランナー賞を6回受賞、2020年に殿堂入り）

・暑さ対策の第２ステージとして、気候特性である「暑さ」に対しデジタルを活用した取り組みを行う。都市ポータルアプリ「クマぶら」で6月から「暑さ対策スマートパッケージ」サービスを提供し、市民が暑さと共存しながら健康を守る行動変容を促していきます。

・デジタルの力で地域の気候特性と共存する取り組みは、地域課題を解決する独自性のあるデザインであることからグッドデザイン賞（カテゴリー：取組み）に応募します。（応募開始：R6.4月～）

3　「コミュニティラボ」、「デジタルデザイン企画」について

市民参画の視点

・熊谷スマートシティは、**コミュニティ、持続性、（まち・ひとの）ストーリーを重視**しつつ、各種の仕組みが好循環を生むエコシステムの効率的な構築を目指します。

・「シーンスケッチコンテスト」、「コミュニティラボ」、「デジタルデザイン企画」を連携して実施することで、地域の子どもたちの「社会にデジタルで参画する」意識を高め、ひいては地域の魅力を高め、産業を支えることにつながっていく、という流れを作り、熊谷市の企業活動支援・産学連携・スマートシティの共通の軸とする。

事業名	①シーンスケッチコンテスト（R5年度から）	②コミュニティラボ（R6年度から）	③デジタルデザイン企画（R6年度から）
目的	・市の未来を共に考える人材の育成、市の政策への参考	・地域に必要なDX人材やスキルの育成	・学生起業や産業をDXへとつなげる仕組みを構築
対象者	小・中学生を想定	中学・高校生以上を想定	専門学校生、大学生以上を想定
内容	・未来の熊谷市を描くシーンスケッチコンテストの開催	・産業系のコミュニティ（交流や意見交換の場）をWEB上に設置 ・DXアイデア・事業創造のルートマップ（ロジックモデル）の作成 ・キックオフイベント（8月）の開催	・市の気候特性である「暑さ」の観測を行い、観測機器と観測方法・マニュアルをパッケージ化 ・5月からワークショップ開始（4回程度、うち1回で気候観測）、9月に中間報告、3月に最終報告
その他	R５年度応募総数283		

・市内産業DX
・ＧＣＦ
・ビジネス化

・スマートクールシティの取組み（※）
・リアルとデジタルのまちづくりの融合

※　スマートクールシティの取組み
暑さ対策スマートパッケージに取り組みつつ、水辺体験空間、手入れの不要な通風型日除け（フラクタル日除け）、ミスト等をまちなか再生と連動して導入を検討。

＜速報＞
令和6年度当初予算（案）概要
令和6年2月14日発表

熊谷市
記者クラブ取材情報（予算関連）

事業の名称等
キャッシュレス環境整備事業

1 事業概要

【目的】
デジタル化による市民サービスの向上を図るため、令和５年度に本庁舎に導入したキャッシュレス決済機能付きレジの維持管理を行うとともに、各行政センターにもキャッシュレス決済システムを導入します。また、「クマＰＡＹ」での支払いにも対応します。

【内容】
○キャッシュレス化対象
証明発行手数料等（住民票の写し、戸籍関係証明書、所得証明、納税証明等）
○設置内容
・各行政センター
キャッシュレス決済システム
・本庁舎及び各行政センター
「クマＰＡＹ」決済用タブレット端末

【効果】
手数料等の支払に、各種キャッシュレス決済が選択可能となり、市民サービスの向上に寄与するものと考えています。また、キャッシュレス決済の利用機会を広げることで、地域のデジタル化の推進を図ります。

2 特徴やPRポイント

コンビニ交付の推進等と合わせ、デジタル技術を活用した窓口改革の一環として、市民サービスの向上を図るものです。

3 その他

※ 資料の有無（　有　・　無　）

担当者　総合政策部企画課　　担当　松村、中村
連絡先　℡　048-524-1115　　内線　216

＜速報＞
令和6年度当初予算（案）概要
令和6年2月14日発表

熊谷市
記者クラブ取材情報（予算関連）

事業の名称等
クマPAY発行事業

1 事業概要

【目的】
地域電子マネー「クマＰＡＹ」の本格稼働を開始し、大手キャッシュレス決済と同様、市内の日常の決済手段として運用します。

【内容】
まち元気商品券として紙で発行していた地域通貨をスマートシティの一環として、デジタルの地域通貨を発行し、市内のキャッシュレス決済手段として定着を図ります。令和６年度は、決済時に決済額に応じて１％を還元します。
また、市で交付している補助金や贈答用での活用を促し、利用拡大に向けた取組を行っていきます。

【効果】
市外に流出している消費を囲い込み、地域経済の活性化を図ります。
また、大手キャッシュレス決済事業者と比較し、加盟店への手数料等がかからない仕組みになっているため、市内事業者のキャッシュレス化も期待できます。

2 特徴やPRポイント

【特徴】
電子マネーという性質を活用し、市の様々な事業に活用できるシステムを構築し、スピード感をもった運用を実現します。

【ＰＲポイント】
２月１３日時点で、市内の７９６店の取扱加盟店があり、順次拡大中。
利便性の高いキャッシュレス決済です。

3 その他

※ 資料の有無（　有　・　無　）

担当者　産業振興部商業観光課　　担当　柳川
連絡先　048－524－1111　　内線　499

＜速報＞
令和5年度3月補正予算（案）概要
令和6年2月14日発表

熊谷市
記者クラブ取材情報（予算関連）

事業の名称等
クマPAY普及促進事業

1 事業概要

【目的】
市内の取扱加盟店で使える地域電子マネー「クマＰＡＹ」の普及促進や消費喚起を図るキャンペーンを実施します。

【内容】
①「決済時５％マネー還元キャンペーン」の実施（令和６年夏頃予定）
取扱加盟店での支払いにクマＰＡＹを利用すると、決済額の５％を還元します。
②「プレミアム付きクマＰＡＹ」の発行（令和６年秋冬頃予定）
プレミアム率２０％を付与した、プレミアム付クマＰＡＹを発行します。
③「インストア説明会」の開催（令和６年上半期予定）
クマＰＡＹ取扱加盟店とタイアップして、来店者に向けた店頭でのイベント型説明会を開催する。

【効果】
・市内経済の活性化
・クマＰＡＹユーザーの増加や取扱加盟店の拡大

2 特徴やPRポイント

【特徴】
電子マネーという性質を活用し、市の様々な事業に活用できるシステムを構築し、スピード感をもった運用を実現します。

【ＰＲポイント】
２月１３日時点で、市内の７９６店の取扱加盟店があり、順次拡大中。
利便性の高いキャッシュレス決済です。

3 その他

※ 資料の有無（　有　・　無　）

担当者　産業振興部商業観光課　　担当　金井
連絡先　℡048-524-1111　　内線　508

＜速報＞
令和6年度当初予算（案）概要
令和6年2月14日発表

熊谷市
記者クラブ取材情報（予算関連）

事業の名称等
橋りょう点検DX化事業

1 事業概要

【目的】
道路法で義務付けられた５年に一度の橋りょう点検について、デジタル技術等を活用し、点検作業の安全化、効率化及びコストの削減を図ります。

【課題】
現在行われている橋りょう点検については、橋りょう点検車や高所作業車、梯子等を使用する危険性を伴う業務であることから、新規技術者の減少や若手技術者の流出が懸念されています。また、今後、道路管理者、民間コンサルタント共に経験豊かな熟練技術者の減少が予想され、技術者不足や業務の非効率等による維持管理経費の増大が見込まれ、業務の安全化や効率化を進めることが課題です。

【内容】
360°カメラ等により撮影された画像データから点群データによる３Ｄモデルを作成する技術を活用し、３Ｄモデル上で損傷状況等の確認や調書作成を行うことにより点検業務の効率化やコスト削減を図ります。
令和５年度は、デジタル技術を活用した点検作業による実証実験を行い、課題等の抽出や問題の整理を行っています。令和６年度は実証内容をもとに更に試行を行い、令和７年度以降の本格導入に向け実証を進めます。

【効果】
点検作業の効率化が図れ、橋りょう点検にかかるコストを削減することが可能となり、同時に作業の安全性が向上します。また、橋りょうの３Ｄモデル化を進めることにより、修繕設計業務のＤＸ化及び修繕工事のＩＣＴ化への対応や将来的に見込まれるＡＩ等による損傷解析の基礎データの収集の推進を図ります。

2 特徴やPRポイント

熊谷市の管理橋りょう数は１０００橋を超えており、点検作業の効率化やコスト縮減を図ることが大きな課題です。他の自治体に先駆け、橋りょう点検のＤＸ化を進めることにより、コストの削減等に取り組みます。
また、３Ｄモデルの作成に大がかりな機材等は使用せず、国土交通省の点検性能技術カタログに掲載された市販の360°カメラ等により撮影された画像により３Ｄモデルを作成する新技術を活用し橋りょう点検のＤＸ化を進めます。

※ 資料の有無（　有　・　無　）

担当課　建設部維持課課　　担当　金子
連絡先　℡　048-524-1111　　内線　543

＜速報＞
令和6年度当初予算(案)概要
令和6年2月14日発表

熊谷市
記者クラブ取材情報（予算関連）

事業の名称等
都市空間情報デジタル基盤構築事業

1 事業概要

【目的】
令和５年度に「３Ｄ都市モデル」を整備・更新し、オープンデータ化に取り組んできましたが、一層の利活用を促進することで、市民中心に熊谷スマートシティの理念を根付かせ、市民目線での政策立案の推進やまちづくりへの参画を推進します。

【内容】
多世代の市民を対象とした地理空間情報データの操作体験や、浸水３Ｄポリゴンデータを活用し防災に関する知識の向上をはかるワークショップ、市内の県立高校３校と連携し高校生を対象としたまちづくりシミュレーション体験ワークショップを開催します。

【影響・効果】
市内に在住、在学する方に対し、３Ｄ都市モデルに関する更なる情報提供や体験の機会を創出します。
その結果、災害リスクの可視化及び避難時の安全な経路選定への活用による防災意識の向上や、高校生にＪＲ熊谷駅、籠原駅周辺におけるにぎわい創出の提案に取り組んでもらうことで、都市計画の立案への活用や、次世代の担い手の育成に繋がることが期待できます。

2 特徴やPRポイント

【特徴】
令和５年度には、官民で利用可能な汎用的ＷｅｂＧＩＳの整備を行い、デジタル技術を活用した景観、熱環境、災害リスクなど課題の可視化を行いました。
今後、更なる利活用を進め、ＤＸの推進に向けた多様な機会を創出します。

【ＰＲポイント】
高校生のまちづくりシミュレーション体験は、市内の県立熊谷西高校、熊谷工業高校、熊谷商業高校の探究活動、課題研究の一環として実施する予定です。
３Ｄ都市モデルの活用について、複数の高校（普通科と専門学科）が同一の事業で取り組むことは全国でも珍しい事例となります。

※ 資料の有無（　有　・　無　）

担当者　都市整備部都市計画課　　担当　小谷、小森
連絡先　℡　0493-39-4813（直通）　　内線